

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
 担当課長名：東川 直正

事業の概要

事業名	一般国道42号（近畿自動車道紀勢線） 新宮道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：和歌山県新宮市あけぼの 至：和歌山県新宮市三輪崎			延長	4.8 km
事業概要	一般国道42号は、静岡県浜松市を起点とし、紀伊半島の沿岸部を通過して和歌山県和歌山市に至る延長約520kmの主要幹線道路である。 新宮道路は、一般国道42号のバイパスとして、和歌山県新宮市あけぼのから和歌山県新宮市三輪崎に至る延長4.8kmの自動車専用道路である。				
事業の目的、必要性	新宮道路は、新宮紀宝道路（事業中）や那智勝浦新宮道路と連続し、紀伊半島沿岸部における三重県から和歌山県南部地域を結ぶネットワークの一部を形成。 救急医療活動の支援、地域相互の振興と発展に寄与するほか、南海トラフ地震等発生時の津波浸水による道路交通寸断の解消に寄与するものである。				
全体事業費	約300億円	計画交通量	約9,200台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
【和歌山県知事】
 一般国道42号（近畿自動車道紀勢線）新宮道路の予算化について同意するとともに、心から感謝申し上げます。
 県としては、すでに事業着手されている区間も含めて、現在沿線の自治体が進めている地籍調査に最大限協力するとともに、これら沿線の自治体と連携し、円滑に事業が推進されるよう用地取得や地元調整などの環境整備に幅広く取り組んでいきますので、平成31年度新規事業としての予算化に特段の配慮をお願いいたします。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 ・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
 ・費用対便益：便益が費用を上回っている
 ・手続きの完了：計画段階評価手続き完了（H25.4）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.4 (0.7)	総費用：3,445億円 （事業費：3,165億円 維持管理費：279億円）	総便益：4,672億円 （走行時間短縮便益：4,204億円 走行経費減少便益：357億円 交通事故減少便益：111億円）	基準年 平成30年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1（交通量 -10%）	B/C=1.7（交通量 +10%）	
		事業費変動	B/C=1.2（事業費 +10%）	B/C=1.5（事業費 -10%）	
	事業期間変動	B/C=1.3（事業期間 +20%）	B/C=1.5（事業期間 -20%）		
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	○	・平行する一般国道42号の混雑の緩和が見込まれる。 （一般国道42号の混雑度：現況 1.47 → 整備後 0.76）	
		事故対策	—	・注目すべき影響はない。	
	歩行空間	—	・注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	・第三次救急医療施設への搬送時間短縮 〔紀南病院～新宮市立医療センター間〕 現況 約23分→整備後 約17分	
		地域経済	◎	・代替路の確保により、災害時における安全性、信頼性が確保され、地域間連携を強化。	
		災害	◎	・津波浸水予測区域を回避することを基本とし、最大津波高を考慮した十分な高さを確保することにより、災害時における安全性・信頼性確保。 ・津波発生時の一時避難場所として活用するため、法面避難階段等を設置し、地域の避難活動を支援。	
環境		—	・注目すべき影響はない。		
地域社会	◎	・代替路の確保により、災害時における安全性、信頼性が確保され、地域間連携を強化。 ・高速ネットワークの整備により、和歌山・三重を結ぶ広域周遊観光ルートが形成され、地域の観光振興に貢献。			
事業実施環境	○	・手続きの完了：計画段階評価手続き完了（H25.4） ・和歌山県知事より、近畿自動車道紀勢線（新宮～新宮北間）の早期事業化を要望			

採択の理由

費用便益比が1.4と便益が費用を上回っているとともに、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、南海トラフ巨大地震等の災害時における安全性・信頼性の確保、高次救急医療施設への速達性の向上等、事業の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上により、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。
 ※B/Cの上段の値は、和歌山JCT～勢和多気JCTを対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果

新規事業採択時評価結果（平成 31 年度新規事業化箇所）

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性		
<p>新宮道路は、新宮紀宝道路（事業中）や那智勝浦新宮道路と連続し、紀伊半島沿岸部における三重県から和歌山県南部地域を結ぶネットワークの一部を形成。</p> <p>救急医療活動の支援、地域相互の振興と発展に寄与するほか、南海トラフ地震等発生時の津波浸水による道路交通寸断の解消に寄与するものである</p>		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県道あけぼの広角線は、約 2.7 km のうち約 4 割の区間が南海トラフ巨大地震発生時の津波浸水により通行不能になると予測。 ・ 広域的な救援ルートとなる高速道路ネットワーク確保が課題。 ・ 平成 23 年 9 月の台風 12 号では、熊野川の氾濫により国道 42 号の道路交通が寸断。 	<p>※関西広域地方計画（H28.3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害時には「命の道」となる紀伊半島アンカールートを構成する近畿自動車道紀勢線や五條新宮道路をはじめ、高速道路等の整備を推進し、緊急物資の集積拠点となる港湾の太平洋側・日本海側 2 面活用を見据えた機能強化により、応急復旧対策のための多重性、代替性備えた輸送ルートを確保する。
住民生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道 42 号は、熊野川渡河部を中心に交通集中による慢性的な渋滞が発生。 ・ 紀南病院から新宮市立医療センターへの搬送時間の速達性・定時性が課題。 	<p>※関西広域地方計画（H28.3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どこにいても高度医療や救急医療を迅速に受けられる環境を構築するため、救急搬送に欠かせない高速道路ネットワークの整備、医療資材や人材確保の連携強化、ドクターヘリの活用を推進する。
地域経済 地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ クルーズ客船は増加しているものの、観光客の移動範囲が限られているため、和歌山・三重県を結ぶ広域周遊観光ルートの形成が課題。 	<p>※和歌山県長期総合計画（H29.4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多彩な観光資源をつなぐ周遊ルートの構築により、消費拡大が期待できる長期滞在型観光を推進します。 ・ 大型クルーズ客船に対応した施設改良など受入体制の整備を進めるとともに、外航クルーズ客船の寄港増に向けた誘致活動を進めます。
その他	—	

事業の有効性									
<p>・ 当該事業の実施により、主要拠点間のリンクの評価が D ランク→C ランクに改善するとともに、不通リンクの解消によりネットワーク全体の防災機能が強化される。</p> <p>・ また、本事業において、災害時にも機能する信頼性の高い高速ネットワークが形成されるとともに、救急医療活動の支援、広域周遊ルート形成による地域活性化への貢献など、有効性の高い事業と評価する。</p>									
道路ネットワークの 防災機能	主な区間		改善 ペア数	脆弱度 (防災機能ランク)		累積脆弱度 の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	和歌山県庁	新宮市	55 (5)	0.97 [C] 〔 1.00 [D] 〕	0.72 [C] 〔 0.80 [C] 〕	▲1632.07 (▲5.16)	0.21 (0.06)	0.28 (0.20)	◎

事業の効率性
計画段階評価手続き完了（H25.4）

※道路ネットワークの防災機能の上段の値は和歌山 JCT～勢和多気 JCT を対象とした場合、
下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果